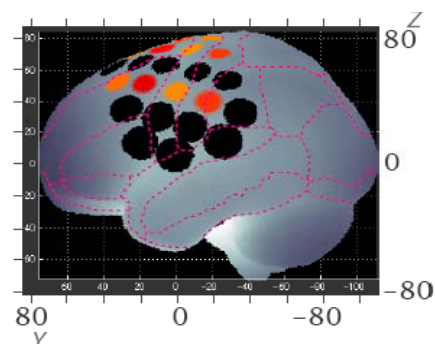


脳内の食品認知処理の描出戦略 —観るべきか、聞くべきか—

技術の特徴

- 観る: 食品に関する脳の情報処理過程を光トポグラフィなどの脳機能イメージング法で可視化すれば、客観的な量的情報が得られる場合もある。ただし、情報の詳細は得られない。
- 聞く: 質問紙調査法は客観的な情報は得られない、と信じられているが、デザイン次第では、極めて客観的な脳内情報の描出が可能である。ただし、聞き方とデータの見方は難しい。
- 尋ねる: ではどうすればよいか？ 私どもにお尋ねください！

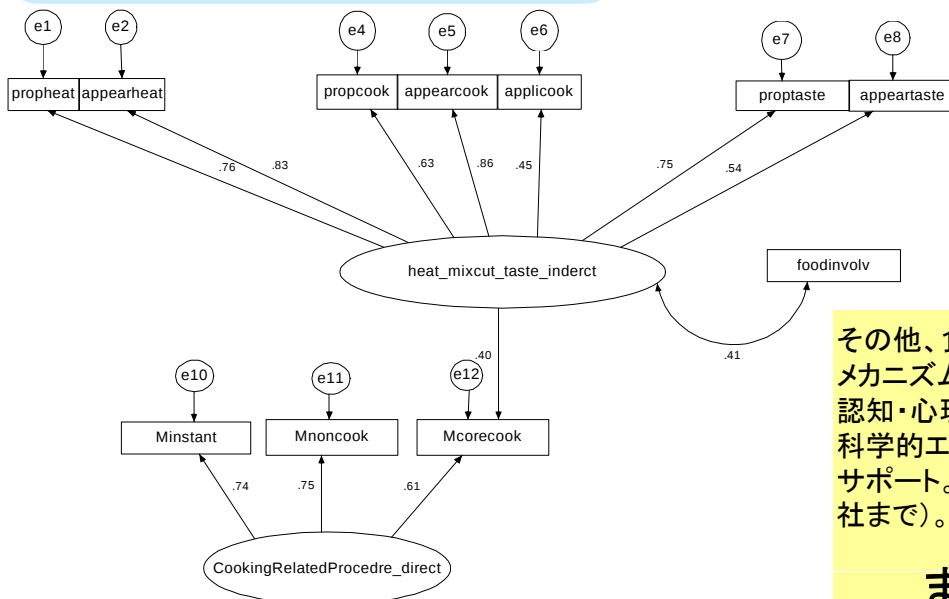
光トポグラフィによる 脳活動評価



嚥下に伴う脳活動を
標準脳座標系に確率表現

脳内食品情報ネットワークの 多変量解析による描出

構造方程式モデルによって
料理の認知構造を描出



その他、食認知科学ユニットが「食の認知メカニズム解明」のために使用している脳・認知・心理学的測定法と装置を活用し、脳科学的エビデンスに基づいた食品開発をサポート。(ただし、共同研究は一業種一社まで)。

まずはご相談を！



農研機構
食品総合研究所



代表研究者: 檀 一平太
所 属: 食品機能研究領域
食認知科学ユニット

問合わせ先: 029-838-7357 dan@affrc.go.jp